いしかわスクエア

井上 道義の 未来だった今より

♬ スズキメソードとエルシステマ

こんなカタカナ題だと何だかさっぱり分からないだろうが、スズキメソードとは、バイオリニストの鈴木鎮一さん（生きていたら114歳）が長野県松本市で1946年（僕が生まれた年）に音楽院を発足させて以来、世界中に広まった教育方式だ。神童は環境がつくるという信念に基づき、母親と幼児が一緒に音楽を言葉のように学ぶ。

その弟子の一人、小林武史さん(81)が1971年にベネズエラを訪れてから数年後、彼の国のアブレウ博士(73)が「エルシステマ」（ザ・システムとでも言おうか）と名付け、それを社会教育の一環として国に働き掛けた。今やチャベス大統領の保護のもと、麻薬や暴力からの脱却を目指すツールとして40万人の生徒が年間65億円のサポートを受けている。

素敵じゃないか。アジアの弦楽器奏者の質の高さの元をつくったのも、中米のクラシック音楽の潮流をつくり、ベルリンフィルのメンバーらが現地に呼ばれて直接教えたりしていることも、元々はたった一人の日本人のアイデアによるなんて！

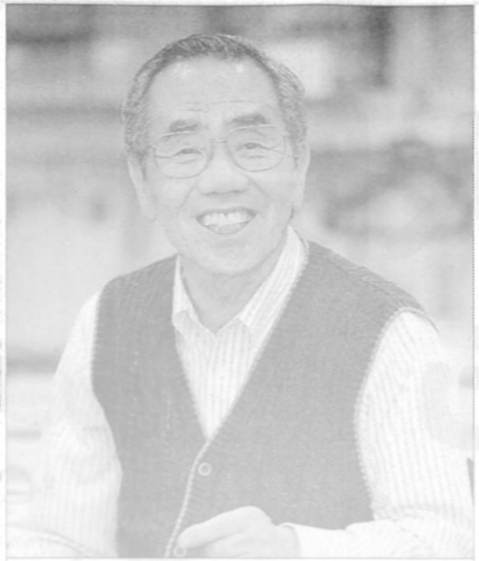
ひるがえって早期教育の本家・日本にはたくさんのアマチュア楽団があるが、子どもオーケストラの台頭も著しい。特に千葉県が助成をしている県少年少女オーケストラ（10歳からで20歳で卒業）は入ることさえ猛烈に難しいほど程度が高い。

オーケストラというのはスポーツなどより年齢の幅が広く、いろんな意味でのおとな社会への勉強に良い教育の場だ。それを日本人に改めて気付かせてくれたのが、鈴木さんの孫弟子のようなアブレウ博士というのも素敵じゃないか。オーケストラにはいつまでも社会にはまらない人間がいるにはいるんだが。僕だけでなく……。

（オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督）

吹奏楽コン中・高の部 あすから名古屋で

カリスマ指導者 大阪・淀川工科高 丸谷名誉教



丸谷明夫（まるたに・あきお）さん
1945年滋賀県生まれ。64年から淀川工業高校（現・淀川工科高校）に勤務。吹奏楽部顧問として、全日本吹奏楽コンクールにこれまで33回出場（特別演奏を含む）し、24回の金賞受賞を誇る。昨年1月、同校名誉教諭。全日本吹奏楽連盟副理事長、大阪音楽大学特任教授も務める。

第60回全日本吹奏楽コンクール（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催）の中・高校の部が31日と11月1日に、名古屋国際会議場で開かれる。中・高校の部で日本で24回の金賞を受賞し、「吹奏楽指導のカリスマ」とも呼ばれる大阪・淀川工科高校名誉教諭の丸谷明夫さん(67)にコンクールの魅力や課題を聞く。

――どうやって生徒をひきつけてきたんでしょう。

全日本に出場しても、なかなか金賞がとれない時期がありました。「賞のことは考えずに、自分たちのやりたいようにやろう」と臨んだら、金賞でした。生徒たちが上手になるには、自分が楽しむこと。ただ指導者がそれを教えるのは難しい。ありとあらゆる失敗をしてきましたが、自分も一緒に楽しんで「あの先生、何が面白いんやろ」と、子どもたちが思う以外に手はありません。

――コンクールでは、どんな思いで演奏に臨んでほしいですか。

楽の本質ではないですが、コンクールという競争があることで一生懸命になれることもあります。必死に上手になろうとするので、生徒たちも成長するんですね。

――今回も淀工を率いて34回目の出場をします。練習はどんな感じですか。

生徒は朝から夜遅くまで練習しています。これ以上できないところまでやるだけのことはやった、という思いがあれば本番で大きな自信につながるからです。努力している人は上手になるし、結果もついてきます。だから、生徒には「日本一の努力をしよう」「心

県内からは、中学の部（31日）に根上中（能美市）と額中（金沢市）が、高校の部（11月1日）に桜丘高が、出場する。

中学前半の部（午前9時開演）で演奏する根上中は2年ぶり8回目。スパーク作曲「宇宙の音楽」で、全日本の大舞台に挑む。

後半の部（午後2時40分開演）に出場する額中は3年連続。チェザリーニ「アルプスの詩」を壮大なスケールで演奏し、昨年に続く金賞を狙う。

桜丘は高校前半の部（午前9時開演）で演奏する。情緒豊かに奏でるレスピーギ「ローマの噴水」で7年ぶり2回目の全日本への切符を手にした。（大野晴香）

短信

◆アルコール関連問題講演会 11月1日13時半、金沢市鞍月1丁目の県庁1102会議室。アルコール依存症についての講演と体験者の発表。申し込みは県こころの健康センター（076・238・5761）へ。

◆和合亮一講演会「福島で生きる、福島を生きる」 11月3日13時30分、金沢市角間町の金沢大学人間社会第一講義棟102教室。福島在住の詩人による講演と詩の朗読。金大祭本部実行委員会（076・232・1487）。